

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもデイサービスきらり 中安井ルーム		
○保護者評価実施期間	※ 現在在籍者がいないため今年度は保護者評価は行っていません。		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○従業者評価実施期間	2025年 9月 1日 ~ 2025年 9月 10日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 10月 25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「できた！」という実感を得られる支援。	「おてつだい」としてはじめはスタッフと一緒に、徐々に自分ひとりできるように。工程を細分化して少しずつ難しくしていく。また、できたときは褒めて、感謝の気持ちを伝える。	言語による説明だけでは難しいおこさんに対しては手順について写真などを用い、より取り組みやすくしていきたい。
2	活動プログラムの充実	夏休みなどの長期休暇や祝日については必ず行事を入れる。季節の行事など毎年恒例のものについてはアップデートしながら継続。「祭りの参加」など地域との交流や生活に根付いた支援が行われるよう努めている。新しい取り組みについても取り入れていく。	今後も魅力的な事業所であるために、職員が各自自分の得意な分野について見識を深めたり、幅広く情報を集めたりしていく。一部の児童だけが楽しめるものではなく集団で楽しさを共有していける取り組みを目指す。
3	事業所ホームページのブログ、LINEなどによる積極的な活動内容の発信	活動の詳細を写真つきで(写真については事前にホームページ掲載の許可をとった児童のみ掲載)ブログで発信。また、連絡帳以外に保護者向けLINEでも活動報告を行っている。	今後もネットリテラシーに気を配りつつ、事業所での様子を保護者の方に向けて頂くとともに多くの方にきりでの活動を知って頂くようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族に対する支援プログラム(ペアレントトレーニング)が十分ではない。保護者会がない。	ペアレントトレーニングについては情報提供に留まっている。また、共働き家庭が多く保護者会や勉強会などの場を設定するのが難しい。	保護者からのご要望に沿い、情報収集や提供を行ってはいる。しかし、少数ではあるが保護者会の開催を希望されている方もいるので前向きに検討していきたい。開催については保護者の就労状況も踏まえ考えていきたい。
2	地域との交流が少ない。	事業所の校区や地域住民との関わりが薄い。また、自事業所の行事に地域住民を呼ぶなどの取り組みも行うことができていない。	日頃より近隣の催しなどについての情報を集め積極的に参加していく。地域の方々との交流の場を増やしていくことを今後の課題とし、検討していく。
3			

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 子どもデイサービスきらり 中安井ルーム

公表日 2025年 10月 25日

※ 現在在籍者がいないため今年度は保護者評価は行っていません。

利用児童数 2025年 4月 1日より現在まで在籍者がいません。(3月31日までは2名在籍)

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。						
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。						
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。						
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。						
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。						
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。						
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。						
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。						
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。						
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。						
	11 保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。						
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。						
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。						
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。						
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。						
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。						
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。						
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。						
19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。							

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。					
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。					
	29	事業所の支援に満足していますか。					

公表 事業所における自己評価結果

事業所名 こどもデイサービスきらり 中安井ルーム

2025年 4月 1日より現在まで在籍者がいません。(3月31日までは2名在籍) / 公表日2025年10月25日

Table with 6 columns: No., Check Item, Yes, No, Points for Improvement, and Issues/Improvement Points. Rows are categorized into Environment/Regulation, Business Improvement, and Provision of Support.

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7		個別活動と集団活動については専門的支援計画書にてより詳細に作成、支援する。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		毎朝実施。前日のこどもの様子を全スタッフで共有。また当日予定しているプログラムや送迎の確認も行う。学校休業日などについては児童が帰った後に行う。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		緊急を要したり重要な事案などについては支援終了後に必ず職員間での共有をはかる。それ以外については翌朝のミーティング時におこなう。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		利用時の様子は支援経過に記録。連絡帳や業務日誌にも併せて記録する。連絡帳は複写式で1枚は事業所保管、もう1枚は家庭用となっている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		基本は6か月に一度行う。こどもの発達状況や保護者の意向等の変更があった場合や、支援会議にて必要性を感じた場合はその都度見直す。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		会議には原則、児発管が参加するようにしているが、参加にあたって事前のミーティング等で職員の見解を反映できるようにしている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		必要に応じて各種機関と連携して支援を行う。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		利用開始時には直接赴き、送迎時の注意点など確認を行う。また普段の送迎時にも園での様子や体調面の申し送りを行う。また、事業所での様子や日ごろの支援について確認も行う。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		移行先の小学校に直接赴く、または電話等で情報、および支援内容等の共有をはかる。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7		センターの言語聴覚士の方をお迎えし「コミュニケーションの理解と支援」について研修をしていただく。事業所の悩みや相談についても助言をいただく。	今後も何かあってから連絡をとるのではなく、日ごろよりの連携を大切にしていきたい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	7		地域の行事（福祉秋祭りや障がい者週間フェスティバル）などに参加。地域の公園や体育館を利用するなど地域の方との交流があるが、保育園や幼稚園との交流はない。	今後も地域の人たちとの関わり合いの中で社会性を育ていけるよう積極的に活動の場を広げていく努力をする。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		相談については送迎時や電話で随時相談に応じる様になっている。その場では対応できない場合は必要に応じて訪問したり、改めてお電話にて対応させていただいたりしている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		研修会などは実施していないが保護者からの要望があれば情報提供を行うようにしている。	外部研修などがあれば必要としている保護者にお伝えしていきたい。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約時に説明している。		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		アセスメント、保護者およびこどもからの聞き取りの機会を設け、事業所内での個別支援会議を行い作成を行っている。		
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7		「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、同意をいただいている。		
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		送迎時や電話などその都度ご相談に対応させていただく。必要に応じてご自宅に訪問させていただいたり、その他機関に間に入っていただくなどの支援を行う。		

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	父母の会や保護者会等の開催は行っていない。	今後保護者やきょうだいに参加していただけるような取り組みを準備していきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	契約時に虐待防止についてや苦情受付窓口についての説明を行う。その他相談事項については家庭訪問をしたり、直接事業所にきていただくなど迅速に対応する。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	ホームページでは日ごろの活動の様子を写真つきで報告している。行事予定や業務に係る事項についてはLINEや書面を通して定期的にお伝えしている。	ホームページ等で発信しているが今後もより多くの情報を知っていただけるよう工夫していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	契約時に、重要事項の中で説明を行う。個人情報の取り扱いが適正に行われるように研修ミーティング等で職員への徹底をはかっている。個人情報が書かれたファイルなどは鍵付きの書庫に保管。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	コミュニケーションツールを用いるなど配慮する。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	行っていない。	今後の検討課題である。
	非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	各マニュアルはすぐに目を通すことのできる場所に配置。訓練等の実施については予定表およびホームページで発信している。火災、地震、大雨、不審者等各種想定した訓練を行っている。
46		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	業務継続計画（BCP）策定済。災害発生に備え、各種備品の確保、避難訓練を行う。	
47		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	てんかん発作等の持病のある児童や服薬しているおこさんについては保護者を通じて確認を行う。また変更がないか定期的に確認する。	
48		食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	対応する準備はある。	
49		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	安全管理に必要な研修の受講（「障がいのあるこどもに対する蘇生法を学ぶ」R6.10など）したり、普段から死角を作らないよう心掛けている。机や棚の配置に工夫をし怪我の防止対策を行う。	
50		こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	契約時に説明する。取り組みについてはその都度お便りやSNSなどで報告する。	
51		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	ヒヤリハットを感じた時、すみやかに所定の用紙に記録し提出。毎朝のミーティング時に全スタッフで共有し、再発防止に向けて対応策を話し合っている。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	虐待防止委防止委員を中心に毎年研修を実施している。また虐待の芽チェックリストを実施し日ごろの支援の振り返りなどを行う。外部研修にも参加。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7	契約時に保護者に説明する。身体拘束適正化委員会の指針に沿って、具体的に必要性が懸念された場合については保護者に了解を得たうえで支援計画に記載するようになっている。		